

〔目的〕昭和53年度の国民栄養調査成績によると、有経女性のみならず、50才以上の女性においても、その約20%が貧血であると報告されている。貧血の治療には種々の鉄剤が用いられているが、鉄剤による胃腸障害等の副作用も知られている。そこで、私達は鉄剤として硫酸第一鉄を対照に牛血ヘモグロビンを用い、貧血ラットに対する効果を検討した。

〔方法〕閉経後の鉄欠乏性貧血の実験モデルとして、卵巣摘出、鉄欠乏性貧血ラット(5週齢SD系雌)を用いた。鉄剤として硫酸第一鉄と牛血ヘモグロビンを用い、各々鉄として10ppmまたは200ppm添加した場合の効果をヘマトクリット、ヘモグロビン値および血清鉄レベルにより比較検討した。

〔結果〕1)飼料摂取量は200ppm牛血ヘモグロビン食群が200ppm硫酸第一鉄食群に対し有意に増加した。2)ヘマトクリット、ヘモグロビン値では、鉄欠乏食群に対し鉄添加群はいずれも有意な改善効果を示し、特に200ppm添加群が高値を示した。10ppm添加群についての比較では、硫酸第一鉄食群が牛血ヘモグロビン食群に対して高値を示したが有意な差ではなかった。200ppm添加群についての比較では、硫酸第一鉄食群と牛血ヘモグロビン食群との間に有意な差はみられなかった。

〔結論〕以上より、牛血ヘモグロビンの200ppm投与では硫酸第一鉄にくらべ食欲が増し、またヘマトクリット、ヘモグロビン値では同程度の効果を示すことから、胃腸障害等の副作用を考えた場合、鉄欠乏性貧血に対する鉄剤として有用であると考えられる。